

【稽古休みについて】

コロナの感染者が依然として高止まりの状態です。

役員の意見としても、もういつまで待ってもしようがないので、稽古再開しても良いのではと言う意見もありましたが、とりあえずあと一ヶ月様子を見ようということになりました。

従って9月も稽古はお休みとします。10月には再開予定ですが状況次第です。

10月近くなりましたら、又連絡いたします。早く、みんなでワイワイ言って稽古をしたいですね！

会員の皆様にはもうしばらくの我慢をお願いいたします。

会員投稿 吉田さんからの投稿です

武道、武術を習う動機として「護身術を身につけていざという時に身を守りたい」という話を聞くことがあります。「いざという時」は「暴漢に襲われる」などが想定されていることがよくあります。

昔の達人たちは、わざわざ暴漢が集まるようなところに向いて、実戦と称した危ないことをしていたようですが、その達人たちも「今の世の中では無理な行為である」と言っています。

合気道の技を実生活で使うということはめったにないと思われれます。

では、合気道のなにが普段の生活で役に立つのでしょうか？

北星館に入門すると、まず受け身と体捌きを習います。

受け身ができないと、技をかける方もかけられる方も思い切った稽古はできません。

合気道の技は体捌きがもとになって出来ています。

この受け身と体捌きが日常生活でも非常に役に立つのです。

暴漢に襲われる確率より、転んだりぶつかったりして痛い思いをする確率が高いでしょう。

バランスを崩して倒れそうになった時にどうやって身を守りますか？

何かに捕まる？手をついて体をかばう？これらの方法だと被害を大きくしてしまうかもしれません。

例えば、手のつき方が悪くて最悪骨折してしまう可能性もあります。

ケガをすると合気道の稽古どころか、日常生活にも支障をきたしてしまいます。

受け身で素直に転がり、倒れるショックを逃がしてしまうことで被害を少なくすることができます。

人混みの中を歩いていると、人とぶつかりそうになることはありませんか？

ぶつかったことが原因でトラブルに発展したという話も聞いたことがあります。

人だけではなく物にぶつかりそうになるということもありますね。

よくあるのは、曲がり角で出会い頭にぶつかりそうになったということですね。

ぶつかりそうになることは転ぶよりも頻度は高いのではないのでしょうか。

自分もとっさに体を捌いて、ぶつかるのを避けることができたという経験はよくしています。

体捌きを使う機会は受け身以上に多いかもしれません。

受け身と体捌きは合気道の基本ですが、日常生活で役立つ非常に優れた「護身術」とも言えます。

編集後記

新型コロナウイルス感染が収束はしていませんが、with CORONA ということで世の中では、いろいろな活動が再開されています。北星館でも長期間稽古を自粛してきましたが、今後は CORONA と折り合いをつけながら活動していくこととなりますので、会員の皆様のご協力よろしく願います。